

平成19年度第1回
千葉市介護保険運営協議会あんしんケアセンター等運営部会議事録

- 1 日時 平成19年5月17日(木) 19時～21時
- 2 場所 中央コミュニティセンター8階会議室 千鳥、海鷗
- 3 出席者 (委員) 畔上加代子、飯田穂豊子、入江康文、宍倉邦明、神山邦子、藏屋勝敏、高野喜久雄、田邊宗一郎、松崎泰子、宮原二三代、山崎和子、和田和子 (委員12名全員出席)
- (事務局) 高齢障害部長、高齢福祉課長、高齢施設課長、介護保険課長、
ほか7名

4 議題

- (1) 平成18年度あんしんケアセンターの実績について
- (2) 介護予防の取り組みについて
- (3) 地域密着型サービス事業者の指定について
- (4) 地域密着型サービス事業者の平成19年6月1日付指定について
- (5) 平成19年度における公募による事業者の選定について

5 議事の概要

議事に先立ち、会議は一部非公開であることを確認した。

- (1) あんしんケアセンターの平成18年度実績について
事務局より資料に基づき報告を行い、質疑応答、意見交換を行った。
- (2) 介護予防事業の取り組みについて
事務局より資料に基づき報告を行い、質疑応答、意見交換を行った。
- (3) 地域密着型サービス事業者の指定について
事務局より資料に基づき説明を行った。
- (4) 地域密着型サービス事業者の平成19年6月1日付指定について
事務局より資料に基づき説明を行い、質疑応答、意見交換を行った。
- (5) 平成19年度における公募による事業者の選定について
事務局より資料に基づき説明と審査の協力依頼を行った。

6 会議経過

	<p>議事に先立ち、事務局より会議は一部非公開であることを確認し、その後、松崎部会長が議長となり議事を進行した。</p> <p>－ 議題（１）あんしんケアセンターの平成18年度実績について －</p>
部会長	<p>1年間のあるしんケアセンターの実績をみて、当初あんしんケアセンターは未知数の中で出発した。18年度実績をみて何か質問があれば発言してください。新予防給付プラン作成はセンターが52.3%、委託事業所が48.7%と半々である。千葉市は、ケアプラン作成のために4月から増員策を実施した。</p>
事務局	<p>本格的には19年度からである。1人あたりのケアマネのケアプラン作成の件数が制限されるため、在宅介護支援事業所は介護報酬の高いほうにシフトすると考えられ、結果的にはあんしんケアセンターのケアプラン作成が増加すると予想される。</p>
委員	<p>基本健診の受診率は43%か。以前、50%くらいと聞いていたが低かったのか</p>
事務局	<p>若干低かったが、受診票を発送するのは、H18年度中に65歳を迎える方にも発送しているので、死亡や転出入で5,000人位の差がでる。3月末の高齢者数約163,000人に対して72,000人が受診した。</p>
委員	<p>特定高齢者を5%と想定していたが、2%ということは千葉市には元気な高齢者が多いということか。 また、特定高齢者決定数がローゼンヴィラはま野は26人で多いのはなぜか。</p>
事務局	<p>特定高齢者候補2% 全国的にも5%に達していない。厚生労働省は「未受診者の中にこそ特定高齢者候補がいる」と言うので、19年度は未受診を地域で受診につなげたい。なぜローゼンヴィラはま野だけが26人なのかは説明できないが今後分析する。他のあんしんケアセンターもはがき発送等実施してもらっているが、なぜ偏りが出てしまうのか今後調査していく。</p>
委員	<p>委託料の出来高払いという考えはないか。定額ですべてお任せしている。熱心に活動しようが、しまいが出来高は関係ない。評価は3年間これで任せるという形をとっており、これが動きを鈍くしていると思うが。</p>
事務局	<p>あんしんケアセンター設置前に在宅介護支援センターと協議し、一定額でスタートした。今後、努力の結果に応じた報酬を視野に入れるとか、高齢者人口別に委託料を考えるなど格差をつけるようなことは検討していく。</p>

委員	包括支援センターの活動には地域の掘り起こしをしていくことがあるが、あんしんケアセンターは外に出て行っていないのではないかと。3年後はきちんと実績の見直しをやって委託先施設も考える。
委員	ローゼンヴィラはま野は出張相談、予防プラン作成も多い。これは評価すべきことである。
事務局	18年度以前の在宅介護支援センターのときは出来高払いであった。ローゼンヴィラはま野は定額制になってもその精神を貫いてコストを別にして地域の皆さんに接していくという考えを打ち出している。
委員	総合相談で介護保険制度の内容が圧倒的に多い。H12年に発足し定着したと考えていたが、どういう内容が多いのか。
事務局	18年度に制度改正があった。要介護状態区分が変わり要支援1・2ができ、介護保険料が5段階から7段階に改正されたのが要因であるが、詳細が必要なら後日報告したい。
委員	あんしんケアセンターは専門職種を配置しているのに、制度の説明だけに力を取られていいのか。もっとやるべきことがあると思う。主任ケアマネが他のケアマネに専門的支援は当然やっていると思うが・・・
事務局	17年度後半から18年度に向けて、介護保険制度の改正があり、市として介護保険の特集号を出し、いろいろな機会でも説明するなど、思いつくことはやってきたつもりではあるが、制度の周知は引き続き力を入れていく。
	－議題(2) 介護予防事業の取り組みについて－
委員	来年から特定健診になるが、国保加入者は千葉市が保険者なので、従来どおり出来そうであるが、被用者保険の場合、中小の保険者がどうするか民間事業者が参入した場合健診の精度が下がるのではと、心配している。どうなるのか見えてこないのを教えてほしい。県内では基本健診が有料の市があるが、千葉市は無料で且つ受診率を上げるという見解でよいか。
事務局	基本健診が20年度から、メタボリックシンドロームに主眼を置いた特定健診にかわる。国民健康保険加入者は従来どおりの健診が実施できると思うが、被用保険者については、被用保険者単位で実施するのか、市に委託してくるのか読みきれない。
事務局	20年度75歳以上については、56市町村の広域連合は市に委託してくると思われる。被用保険者について生活機能評価票の発送は可能だが、健診結果のデ

事務局	<p>一ター回収方法については検討が必要である。</p> <p>現在、基本健診は費用負担なしで実施しているが、保険料は年齢別ではなく、所得別となっている。39歳以下には健診をしないのに、保険料に差をつけないでこのままでよいのか、不公平ではないかという問題が生じてくる。特定健診に変わった場合、40歳以上の健診を無料で行ってよいかは現段階では言えない。</p>
委員	<p>民生委員は65歳以上のいる家庭に戸別訪問し、高齢者実態調査を実施しているが、高齢福祉課が作成した「高齢者福祉サービスのご案内」という小冊子やチラシを活用している。</p> <p>議題（3） 地域密着型サービス事業者の指定について 事務局からの説明のみ</p> <p>－ 議題（4）地域密着型サービス事業者の 平成19年6月1日付指定について － 非公開</p> <p>－ 議題（5）平成19年度における公募による事業者の選定について － 非公開</p> <p>－ その他 －</p>
委員	<p>Jリーグのサッカーチームに補助金を出して、介護予防事業を実施するというが千葉市はどうか、スポーツ選手に指導するようなトレーナーでは一般の参加者には無理はないのか</p>
事務局	<p>昨年度、厚生労働省のサッカー人気を利用した介護予防モデル事業があり、千葉市が実施した。40歳以上200人を対象にウォーキング、リズム体操などを実施し、結果的には参加者の運動能力はアップし効果があった。19年度は、国はJリーグに補助金を出す。千葉市も今年度はジェフが主体となり、市が二分の一の補助金を出して、6月から実施予定である。指導するスポーツトレーナーは大学関係者もあり、怪我が無いように配慮している。</p>
委員	<p>ボランティア活動をポイント化して、介護保険料に換算するという記事が新聞にでたがどうか</p>
事務局	<p>介護保険の地域支援事業費を活用しているが、早急に検討していく。</p> <p>次回予定(9月頃)を確認し、閉会する。</p>